



ROOKIES会員の皆様の活動に感謝！！

愛知県児童福祉施設長会
会長 神谷常憲

私事ですが、児童に携わる仕事に就いて40年を過ぎました。そのうち13年間は保育園に勤務していましたので、子どもたちと生活を共にした施設職員としての実質勤務経験は27～28年ほどです。また、愛知県児童福祉施設長会の会長に就任してからは8年になります。

時代の流れと共に私たち施設の役割は、当然の事ですが変わってきました。

職員の数も昔と比較すれば、かなり増えました。

しかしながら、今も昔もやらせていただいている仕事の中心は、入所している児童の世話です。近年、法律が改正され退所児童の自立支援が明記されるようになりましたが、施設を巣立っていった卒業生の人たちのことに手厚くエネルギーを注ぐ余裕がなかなか持てない、というのが正直なところです。私たちの役割、出来ることはやった。ここから先は自分の力で生きていきなさい。と昔ながらの考え方で「がんばれよ！」という言葉で送り出してきたように思います。そういった流れのなかで、私達施設職員がやるべきアフターケアの手の行き届かない所を、職親的な立場で関わってくださっているROOKIESの会員の皆様には、只々「ありがとうございます。」という感謝の気持ちでいっぱいです。退所児童の自立支援を他人様任せにするのではなく、まずは私たち施設職員自らが意識改革をし「がんばれ！」という言葉掛けだけでなく、本当の意味での退所後の支援を実行していかなければ、児童と共に生活をして、その子の成長を支援してきた施設職員としての役割が果たせない時代が来ていると思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。ところで話は変わりますが、高校生交流会の報告書『上昇気流XXV』に高校生スタッフ一同から高井英匡氏へのお礼の手紙が掲載されていました。その一文を引用させていただくと、「高井さんの言われたように、なぜ失敗してしまったのかを素直に反省し、途中であきらめてしまったり、投げ出してしまわないように努力していきたいと思いました」とありました。ご自身の体験談から「諦めない心」を高校生諸君に諭していただき誠にありがとうございました。

私は、この仕事に就く時に【我が父を我が師】と仰ぐことを決意しました。社会勉強のためといえは聞こえはいいのですが、回り道をしてこの児童福祉の仕事を生涯の道として選んだ私に、父は多岐に亘って諭してくれました。まだまだ教わりたいことが山ほどあったのに、父はもうこの世にいません。みなさん！今やらなければ、いつやれる。俺がやらねば誰がやる！！です。

自分の人生において、この人ならという師匠、先輩を見つけることは成功への近道であり重要なポイントだと思います。併せて、少なくともいいから、本当に信頼できる友人を作ることだと思います。

みなさん、あしたも元気に、がんばりましょう！！